

なんだ・かんだ

◆ スコッチウイスキー ◆

昨年NHKの朝の連ドラで、ニッカウイスキーの創業者竹鶴政孝をモデルに「マッサン」という番組がありました。この番組はかなりの視聴率を稼いで、その影響でニッカの「竹鶴」が品切れになるほど売れ、酒類でのウイスキーの地位が上がりました。

私が初めて飲んだウイスキーはサントリーの「ダルマ」。父親の飲んでいるお酒を盗み飲みしたのが最初だったと思います。それから、大学の時に新宿の「じゃがいも」という飲み屋（今で言う居酒屋）に「ホワイト」をボトルキーブしてしたのを覚えています。ボトルをキーブしてちよっぴり大人になったような気分になったものです。

その後大学4年の頃だと思うのですが、バーボンを炭酸で割って飲むいわゆるハイボールが一時流行った時から「オールドグランドット」というバーボンを今に至るまで30年以上愛飲していました。味の違いはわかりませんが、ジャックダニエルよりも安価で、ボトルがオレンジ色で綺麗だったこと、また余りメジャーではないので、お店で「グランドットを炭酸で」と言うのがちょっとカッコイイかなと思って、バーやスナックでは、いつもこのバーボンを飲んでいました。

それが昨年、スコットランドのスカイ島にある「タリスカー」というとてもスモーキーなシングルモルトのスコッチウイスキーを友人から頂いて飲んでからハマってしまいました。

ウイスキーの製造工程の最初に、原料の大麦を発芽させ麦芽となったものを乾燥させて発芽を止める工程があります。この乾燥のために使う燃料はガスや重油、炭が主で、ピート（泥炭）も用いられます。ピートを燃料として使用すると「スモーキーフレーバー」と呼ばれる「煙臭」が麦芽に染み込んでその後の製造工程でも失われることはなく、スコッチウイスキーを特徴づける香りの一つとなるそうです。

スモーキーフレーバーの風味はピートが掘り出された場所やピートを焚く時間の長さなどによって異なるということで、醸造所によって違ってきます。ヨードチンキのような風味（香り）で、かなり癖のある味です。

日本でメジャーなスコッチウイスキーのパラントインやシーバズリーガルやオールドパーなどにはこの異様な風味はあまり感じません。臭すぎて一般受けしないのでしょう。

最初に飲んだのは、スカイ島のスコッチでしたが、このピートの効いたシングルモルトのスコッチは「アイラ島」というスコットランドの東にある人口3000人ほどの小さな島で製造されるものが有名で、8つの蒸留所があり、島のメインの産業となっています。それぞれの醸造所からいくつかの銘柄が出されていて、ここ最近私はこのアイラ島のスコッチの中から選んでネット通販で購入して飲んでいました。

私はいつもロックで飲んでいるのですが、本場のスコットランドのバブでは、氷で冷やすと香りが死んでしまうので、ストレートで飲む。濃い場合は水で薄めて飲むのが正なんだろう。

美味しくついつい飲んでしまうのですが、ウイスキーですからアルコール度数は40～50°あるので結構効きます。健康に注意して飲みすぎないようにしながら、この癖のあるスコッチウイスキーを楽しんで行こうと思っています。



■ アスファルト補修材 ■

自社の敷地内のアスファルト舗装が、経年劣化でひび割れが目立ってきたり、一部穴が開いて下の砂利が出てしまっていて困っているというような事はありませんか。一度このような状態になると、劣化してきた場所からどんどんアスファルトがめくれたりして劣化が急激に広がります。治したいけれど、全部を治すには費用がかさみます。そこで、バンドエイド（救急絆創膏）の様に、悪くなった場所だけに上からアスファルトのシートを貼って安価に延命をすることができます。

詳細は当社営業マンにお尋ねください。

受験シーズン

2月も末になり大分暖かくなって参りました。河津桜も満開に咲き誇り多くの観光客が伊豆に訪れています。この時期、下田の担当者には言わせると、10台中9台が県外の車で大渋滞していて、地元の車も逃げ道もなく渋滞にはまっています。

さて、2月3月は受験シーズンでもあります。悲喜こももこも、本人も大変ですが、昨今では親御さんも「緒になってこのシーズンを戦っているよう」です。私事ですが、私の下の子どもも高校3年の受験生で、なんとか推薦が決まりました。これで「安心です」。長男は今年就活で来年には社会へ旅立ちます。二人とも少しづつ親から離れていきます。子供の成長は嬉しいやら悲しいやら複雑な気持ちです。

そして、この成長と同時に入学金やら授業料、そして下宿をすれば家賃や生活費と出費が増えます。使う人がいる限り、稼ぐ人であるお父さんは頑張らなければなりません。私もあと4年は頑張らなければ。

世の中ではまだまだ受験シーズン真っ只中、皆様のお子さんの中にも受験生がいっぱいいらっしゃると思います。インフルエンザも流行っています。体調管理だけは万全に。

代表取締役 服部敬一郎

社員ブログ

●千里の馬は常に有れども伯楽は常にはあらず●

営業部 周凱翔

「千里の馬は常に有れども伯楽は常にはあらず」と言う本があります。著者は韓愈（かんゆ）・雑説・四首・其四です。

最近、私は韓愈の雑説の本を読んで、人と人の奥深さを知りましたので、その中一部を紹介いたします。

【内容】：世間に馬の良し悪しをよく見抜く人がいてこそ、千里も走る名馬というものがありうるのである。名馬はいつでもいるけれど、それを見抜く人はいつもいるとは限らない。だから、たとえ名馬がいたとしても、見抜く人がいなければ、ただ下働きの者にこき使われ、飼料の間に首を並べて死んでしまっただけで、千里も走る名馬とはいわれぬままに終わってしまう。世の中には本当に名馬がいらないのか、それとも世の人が名馬を見分けられないのか。

【意味】：いかに才能のある者も、それを認めてくれる人がいなければ、力を発揮できない。「千里の馬」は、一日に千里も走ることのできる名馬。「伯楽」は、元々星の名で、天上で馬の世話をするのが役目であった。転じて馬の素養を見分ける人をいうようになった。

【まとめ】自分に合う仕事が見つければ、どんな苦しくても、最大限頑張る。



本レターのご提供に付きまして、ご不要・ご迷惑という方に付きましては、その旨ご一報頂きたいと思っております。次回からの発送を中止させていただきます。

・ 株式会社チキリ

静岡県駿東郡清水町卸団地 73

Tel 055-971-9610 Fax 055-973-1534

E-mail gen@chikiri.com URL http://www.chikiri.com/